



学校運営計画(4月)				評価(3月)	
学校運営方針		本校教育を通して、校訓「自助・自敬・信愛」の精神を培い、指針のない時代を自らの判断でたくましく生きていく力量を育成するとともに、生徒一人ひとりの個性・特質を伸張させ、コミュニケーション能力、判断力、社会性を向上させる。また志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい人材を育成し、地域・生徒・保護者の学習ニーズに応える学校づくりをめざす。		A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標			
昨年度は創立80周年記念事業を盛況に終えることができた。また定時制単位制開校から5年、卒業生の中には芸術分野で活躍する者、現役で難関大学に合格する者と、進学・就職分野で実績を上げてきており、この5年間の集大成として「ひびき」らしい卒業生を社会へ輩出できた。この成果を個から小集団へと仲間意識を醸成しつつ、互いに助け合い目標を達成できる態勢を整えたい。		具体的目標			
		具体的方策			
教務部	生徒の学習意欲を喚起し、学力を向上させる。	生徒の学習ニーズを的確に捉え、単位制の特質を生かしたシステムに反映させる。魅力ある授業、学習意欲を引き出すHR・「総合的な学習の時間」を構築していく。	B	A	生徒の出席率、入学後の動態調査、意識調査の分析を行ったが、顕著な特徴は析出されなかった。一方、生徒のニーズを時間割マスタに反映させる科目配置を深化させた。また職員学習指導力向上を図る公開授業や授業評価、IT環境の整備等に取り組んだ。生徒募集では体験入学の参加者が昨年度より増加した。今後、生徒の学習活動に対する意識を向上させ、「学ぶことの大切さ」を学校文化として確立していきたい。
教務課	学習指導やシステムを充実させ、生徒の学力、学習意欲を向上させる。	学力診断やアンケート等の分析を通じて、生徒の学力・学習ニーズを的確に把握する。生徒の意欲を喚起する時間割マスタの編成を行い、単位修得率80%を達成させる。	B	B	
情報システム課	教職員のIT活用力を向上させ、校内IT環境の整備に努める。	各講座におけるインターネット活用率100%をめざし、職員研修を実施する。すべての教室でIT機器を活用し、教育効果を高めることができる環境整備を行う。	B	B	
研修・図書課	学習指導力を高める研修活動を行い、図書館機能の充実を図る。	公開授業(年1回)や授業研究(年2回)、授業評価(年2回)を実施する。選書会議等を通じて、生徒の興味・関心を引き出し意欲を向上させる選書を行う。	B	A	
庶務・広報課	教育環境の整備に努めるとともに、教育内容の広報活動を行う。	職員室、教室等の環境を整え、教育効果の向上を図る。HPの運営、本校体験入学(年2回)や中学生進路相談事業(4学区)の運営を行う。	B	A	
生徒指導部	心豊かに逞しく生きる力を育て、自主性と自己責任力の伸長を図る。	生徒会活動を活性化させ、学校行事の充実に努め、魅力ある学校作りを推進する。優しさを培う多様な奉仕・体験活動呼びかけ、積極的な参加を促す。	A	B	新企画の交流大会は、生徒の生き生きとした姿を見ることが出来た。また、部活動加入率も25%の目標を達成した。来年度は体育館改装工事があり、場所の確保など工夫が必要である。中退者防止の目標については、充実した支援体制を強化継続し、次年度につなげたい。校内の環境整備については、各教室に美化に関する標語等を貼るなど意識の向上を図った。
生徒指導課	意欲的な学校行事の参加を促すと共に基本的な生活習慣の育成をめざす。	IDカードの着用率100%をめざす。アルバイト届けの徹底と職場訪問の実施。部活動加入率25%を目標にする。文化祭や交流大会等の行事の充実。	B	B	
修学課	生徒個々の修学を援助・指導しつつ職員間の情報共有化を図る。	校外の各機関との連絡調整を行い、組織的かつ継続的な支援・指導に取り組む。不登校防止や中退防止に向けた対応策の構築により中途退学者の2割削減を目標にする。	A	A	
保健課	教育環境の整備充実に努め職員・生徒の健康増進のための支援を行う。	諸検診の円滑な運営を心がけ、生徒の健康管理のため、受診率100%を目標にする。保健便りを毎月発行し、生徒・保護者の健康管理・環境美化への意識を向上させる。	B	B	
ガイダンス部	進路希望の早期決定を促し、その実現と受講計画の合致をめざす。	キャリア教育の視点を導入し、能力や個性を生かした進路希望の実現をサポートする。進路指導やガイダンス等の情報を教員間で共有し、進路指導の充実を図る。	A	A	今年度目標に掲げた進路情報の職員間の共有、進路ガイダンスの実施、インターシップの導入は実現できた。次年度の課題としては、今年度実施した事項の継続発展と、高大連携事業の充実を第一としたい。また、生徒の進路実現を目指したキャリア教育の観点から、早期の学習サポートを実施する等、教務と連携し受講指導の改善を図る。
進路指導課	進路目標の早期決定を促し、その実現に向けた進路指導を充実させる。	進路希望の早期決定と進路指導の徹底により、進路実現100%をめざす。保護者向進路講演会・近未来ガイダンスの実施により進路希望意識の高揚を図る。	B	A	
ガイダンス課	キャリアガイダンス教育の基盤を作る。	「総合的な学習の時間」における卒業までを見通した系統的な進路別学習の基盤を作る。最新の進路情報の共有をめざした職員研修を企画・実施し、受講ガイダンスに繋げる。	A	A	
進路渉外課	高大等連携の充実とインターシップの導入を図る。	高大等連携事業への生徒の参加意識を高め、進路決定の一助となるよう参加率を上げる。生徒の卒業後の職業観を高めるためにも、インターシップの紹介・導入をおこなう。	B	B	
年次部	単位制高校の特質を活かし、生徒の自己管理能力の育成を図る。	教育相談体制等のサポート体制を活用し、一人ひとりの成長をきめ細やかに支援する。特別活動(HR活動・学校行事)への積極的な参加を促し、出席率85%をめざす。	A	A	修学状況に問題のある生徒の対応について、これまで以上に迅速に対応でき、問題解決につなげることができた。多くの生徒が将来を見据えて進路を実現する中で、進路未定の生徒も残っており、今後は3つ年次部が連携して進路意欲の醸成を図ることを課題として取り組みたい。
新入生年次部	基本的な生活習慣を確立させ、進路実現を見据えた学力の深化を図る。	自己管理能力を確立させ、社会のルール・マナーをもとに学校生活の在り方を考えさせる。基礎学力および応用学力の充実を図り、英検、漢検合わせて30名以上の合格をめざす。	A	B	
在校生年次部	生徒間、生徒と職員間の連帯を形成個性を発見し伸ばすサポート。	情報の共有と、共同作業の意識向上のために、年次ミーティングを増やす。コミュニケーションをより円滑にするために毎日3人以上の生徒と個別面談をおこなう。	A	A	
卒業生年次部	進路目標の実現とともに、社会に貢献できる人間の育成を図る。	将来を見据えた進路目標を確立させ、その実現を図り、100%の実現率をめざす。HR活動等を中心として社会人としてのルールとマナーの徹底、モラルの育成をめざす。	B	A	

